

オオゴマダラ

うるま市の蝶
シリーズ①



【文・写真】
具志川ちよつちよう
愛好会 照屋健一郎

オオゴマダラが昨年12月18日、うるま市のシンボルの蝶に決定されました。市内には子供から大人まで、多くのオオゴマダラファンがいます。この決定をファンの皆様と共に喜びたいと思います。

オオゴマダラの魅力はなんといっても、黄金のサナギと優雅に飛び交う姿でしょう。また、幼虫から黄金のサナギに蛹化する場面やサナギから蝶に羽化する瞬間は大変神秘的であり、観る人を魅了してやみません。

私たちは、日本最大のオオゴマダラが市のシンボルになったことを契機に市内でも、どこでも優雅に飛び交う姿が見られるように、なお一層活動の輪を広げていきたいと会員一同思いを新たにしています。

日本最大の蝶「オオゴマダラ」

沖縄県工芸士に認定

伊波メンサー織の伊波貞子さん



い は さ だ こ
伊波貞子さん
(市石川伊波)

伊波さんは1982年（昭和57年）頃から当時の技能保持者であった故伊波カマドさんに師事。現在は後継者育成に尽力されています。



伊波メンサーは高機や地機を使用せず、身近にある竹や木の棒でつくられた織り具を使い、織りながら前へ進んでいく独特の技法が特徴的です。

伊波メンサー織

その色彩や紋様には派手さはないものの、素朴さの中にも深い味わいがある伝統的な織物である伊波メンサーは、幅十センチ、長さ二メートル程の小幅物の帯で、昔はよく女性から男性への贈り物として織られていました。現在は名刺入れや財布など小物を中心に商品化への研究がすすまっています。

伊波メンサーは織機の原型と思われる原始的用具を用いて織られています。日本に現存する織機の中では、北海道のアツシ織と八丈島のカツペタ織の三例しか見られず、織物の歴史を探る上でも非常に貴重なものだと言われています。

伊波メンサー織技能保持者の伊波貞子さんが、沖縄県の工芸士として認められ、3月19日に認定証書を授与されました。沖縄県工芸士の認定は、伝統工芸品作製に従事し、高度の伝統的技術や技法を持っている方を県が認定することで、社会的評価を高め、県内の工芸産業の振興を図ることを目的としています。

